15年度事業 震災5年 支援4億円超

ベルマーク教育助成財団が2015年度内に実施した事業について報告します。5月16日の財団理事会と6月1日の評議員会で審議され、事業内容・決算報告とも、適正と承認されました。

①参加団体の集票点数

15年度の集票は4億7991万点でした。個人消費の低迷が続く経済状況を反映したとみられます。前年度に比べて2860万点(5・6パイ)下回り、5年ぶりに5億円を割り込みました。

②設備品購入額

お買い物の総額は、5億1380万円でした。前年度より1049万円(2・0パイ)減りました。これまでほとんど要望がなかったラグビーボールが人気でした。ワールドカップでの日本代表チームの活躍が影響したとみられます。刺繍(ししゅう)を入れて、50万円前後にもなる校旗の注文も複数ありました。運動会で使う横断幕も人気があります。サッカーボールやウォークラー等は毎年変わらぬ人気商品です。教材のお買い物需要は根強く、前年度より減少こそしましたが、集票点数に比べると小幅にとどまっています。参加団体には全体で18億円の預金残高があり、有効に使うよう、運動説明会やベルマーク新聞で働きかけた効果もあったようです。

運動が始まった1960年からの累計は、2555億7542万円です。

③参加団体の数

今年3月末で2万7596団体です。前年度同期に比べて216団体減りました。少子化と学校の統廃合により、微減の傾向が続いています。2006年から参加できるようになった公民館・大学は、14増えて252団体になりました。

④被災校支援

【東日本大震災被災校】

岩手、宮城、福島3県の計1158校に総額3495万円相当の教育備品や教材等を贈りました。東北被災地ではまだプレハブ校舎での授業が続く学校もあります。何度も引っ越しをするたびに、授業で使う大型テレビや教室の時計など日常的な物品を必要とする学校がまだあり、喜ばれました。中学校ではクラブ活動で津波被災がない内陸に移動して活動するためのバス代支援に役立てられました。

被災地の子どもたちの「学び」を助けるなど、学校では対応しにくい分野でボランティア的に活動する「寺子屋」事業の2団体に計100万円、公害から立ち上がった熊本県水俣市と福島県の中学生が「復興」を考える「福島・水俣教育交流事業」に50万円を寄付しました。

大震災から5年間の支援は、3県に当初の茨城を加えた4県で延べ1346校、総計4億7335万円相当になりました。

【ネパール地震被災地支援】

参加団体からの寄付(友愛援助)に財団からの支出を合わせ、シャンティ国際ボランティア会を通じて現地支援に充ててもらいました。

⑤教育援助事業

【へき地校支援】

東日本大震災被災校支援のため、全国70校に絞っていた支援を、従来の100校に戻しました。視聴覚・理科機器や楽器などの設備品3005万円相当を贈り、出前授業は一輪車講習や理科実験、走り方教室、演劇公演を計26校で開きました。

【特別支援学校支援】

養護学校20校、盲学校17校、聾学校21校と、病院内学級4学級に視聴覚機材、卓上型拡大読書器、短焦点プロジェクター、パソコンなど合計1554万円相当を贈りました。

【開発途上国の学校などへの援助】

アジア・アフリカなどで活動する9団体を通じて9カ国に計610万円を支援しました。参加団体がPTA預金から寄付してくださる資金と財団予算を合わせて、開発途上国の学校、図書館建設や保健教育活動などに充てられています。参加団体からの、この寄付を「友愛援助」と呼んでいます。

⑥協賛会社・協力会社

商品にベルマークをつけている協賛会社に、15年4月にBRITA Japanが加入、10月末で小倉屋柳本(大豆食品)、16年3月末でソントン食品工業(ジャム)、ロッテアイス(冷菓)が脱退し、全体では1増3減でした。新年度になりますが、4月1日に岩塚製菓(米菓)が加入、昨年度末に一旦脱退したナカバヤシ(学習帳)が再加入しました。年度当初では58社(前年度同期比1社減)になります。

ベルマーク参加団体に教材を販売することに伴い寄付をしてくれる協力会社は15社で変動ありません。

⑦運動推進事業・広報宣伝事業

【運動説明会】

新たにベルマーク運動の担い手となる、新年度のPTAの皆さんに、マークの集め方や仕分け方、お買い物の仕方を職員が説明し、前年度の役員さんに体験を発表してもらっています。15年度は5月から6月にかけて、95会場で開きました。5052校から1万4122人にご参加いただきました。前年より104人増えました。

【ベルマーク新聞・ホームページ】

毎月40万ページビューという多くの利用をいただいています。PTAの皆さんが日ごろお買い物する時に、ベルマークがついている商品を調べる仕組みも好評です。財団が全国で支援している活動も紹介しています。

新聞は例年通り、年4回発行しました。発行部数は約8万部です。被災地校支援の状況や、PTAの皆さんの活動などを伝えました。

【新規企業へ訪問と勧誘】

14年度から財団事務局内に新規開拓チームを作り、ベルマークにふさわしい企業を勧誘しています。今年度から協賛会社に加わった岩塚製菓(本社・新潟県長岡市)は、その成果の現れです。学習帳のナカバヤシの協賛会社復帰も、脱退に際して感謝状を伝達に行った際に、打診されました。脱退会社への感謝を忘れないことが、早期復帰につながりました。

ほかにも協賛を検討してくれている企業はあり、引き続きアプローチします。現在の協賛会社についても担当職員を決め、年に一度は事業所や工場を訪ね、信頼関係を保つように努めました。

【協賛会社インタビュー】

「ベルマークをつけて業績があがった」という協賛会社の担当者、経営者に対するインタビューが好評です。財団ホームページ、ベルマーク新聞で紹介し、冊子にもまとめています。15年度は宮坂醸造、三井製糖、ショウワノートの社長たちから話を聞き、収録は14社になりました。

⑧新たな取り組み

【ベルマーク大使制度スタート】

財団外のベルマークファンに運動のPRに一役買ってもらう制度を創設しました。第一陣として7人に大使を委嘱しました。学校PTAや協賛会社の代表、仕分け集票ボランティア等、多彩な顔ぶれにお願いしました。第二陣、第三陣と続ける予定です。

【企業等のマーク集めの拡大】

近くの学校や災害被災校にマークを贈りたいと、企業や労組、自治体がベルマークを集める例が増えています。市を挙げて集めたベルマークの半数を市内の学校に、残りを東日本大震災の被災地校に贈るという東大阪市に続いて、2015年度には兵庫県三木市も手を挙げてくれました。今年4月1日付で愛知県豊橋市から「ベルマーク運動日本一のまちを目指す」との申し入れがありました。今後、財団職員を派遣して連携を深めます。

「自由研究はおまかせ」

協賛会社のキヤノンマーケティングジャパン(キヤノンMJ、ベルマーク番号19)が、夏休みの小学生を対象に開く体験型イベント「キヤノンキッズパーク2016〜自由研究はキヤノンにおまかせ〜!」の参加者を募集しています。

親子で楽しみながら科学や環境のことが学べるパフォーマンスや、職業体験コース、カメラについて楽しく学ぶ「特別教室」など、夏休み中の子ども向け企画です。夏休みの宿題や自由研究に役立つ内容です。7月19日から8月31日まで。参加はすべて無料です。

詳細なイベント情報、参加申し込みは専用サイト

http://cweb.canon.jp/kidspark2016/

で内容を確認してください。イベントによっては、申し込みが締め切られたものがあります。人気イベントの申し込みはお早目に。

イベント例

<科学実験教室>

●らんま先生のサイエンス&ECOパフォーマンス

●色の不思議をイロイロ体験しよう!

<職業体験教室>

●ショールームスタッフを体験してみよう!

●エンジニアの仕事を体験してみよう!

<自由研究教室>

●牛乳パックでカメラをつくってみよう!

100年文具アイデア募集

いろいろな文具にベルマークを付けている協賛会社のクツワ(ベルマーク番号55)が、文具についてのユニークなアイデアを募集しています。「100年後も愛される文具」と銘打ち、文具や事務用品、とくに子どもが使う学童文具を対象に、8月1日(必着)まで受け付けています。

クツワの商品をベースに工夫を凝らしたもので、「斬新で機能やデザインに優れ、付加価値があるもの」「商品化の可能性があるもの」を基準に社内で審査し、大賞1点に賞状と10万円分の商品券を贈るほか、複数の優秀賞、入賞アイデアにも図書カードを贈呈します。10月3日(月)にクツワホームページ上で発表します。

参加資格は問いません。親子、子ども同士、会社の同僚などグループでの応募も歓迎しています。

詳しい要領や応募用紙のダウンロードは下記URL(http://www.kutsuwa.co.jp/community/)から。問い合わせは、クツワのサービスセンター(電話06-6745-5611=平日10〜17時)へ。

品質保証シールを一新

協賛団体のNGP日本自動車リサイクル事業協同組合(ベルマーク番号76)が、リサイクル部品の利用促進とベルマーク運動の拡大を図ろうと、部品につける品質保証シールを一新しました。ベルマーク点数は1枚5点で変更ありません。

財団からのお知らせ

ウェブに学校指定機能

インターネットで買いものをすることで東日本大震災の被災校支援をしているウェブベルマーク運動に2015年12月、東北の被災校のほか、自分の指定する学校・団体への支援もできる機能が加わりましたが、その支援先指定による3月末現在の成果がまとまりました。

ウェブベルマーク協会のサイトを通じて買いものをする際、たとえば自分の子どもが通う学校や母校を指定すると、買いものによって生まれる支援金の半分がその学校に、残り半分が東北被災校に贈られる仕組みです。指定できる対象はベルマーク運動に参加している学校・団体です。指定しない場合は、支援金の全額が東北に贈られます。

成果は以下の通りです。

ウェブベルマーク運動

学校指定繰入額トップ10・単位は点

(2015年12月〜16年3月)

1	豊富小学校	兵庫県姫路市	2,741
2	等々力小学校	東京都世田谷区	2,282
3	西富小学校	埼玉県所沢市	2,047
4	国府小学校	千葉県市原市	711
5	こひつじ保育園	長崎県島原市	583
6	向陽中学校	福島県相馬市	470
7	新川小学校	山口県宇部市	469
8	秩父別中学校	北海道秩父別町	393
9	平沼小学校	横浜市西区	376
10	東部学童保育所	群馬県明和町	363

大台達成校

4月、数字は累計点数

有緝小	三重県伊勢市	8,032,098
開進第一小	東京都練馬区	6,004,388
朝陽第四小	山形県鶴岡市	5,054,237
本庄小	神戸市東灘区	5,007,955
華浦小	山口県防府市	5,010,034
城坤小	香川県丸亀市	5,017,684
桂林小	大分県日田市	5,020,089
瀬上小	福島市	4,020,461
白山小	茨城県取手市	4,000,375
大谷場小	さいたま市南区	4,025,307
大谷小	さいたま市見沼区	4,002,918
小平第十四小	東京都小平市	4,020,974
開智小	長野県松本市	4,002,481
原田小	大阪府豊中市	4,010,929
武庫の里小	兵庫県尼崎市	4,009,809
原町小	埼玉県川口市	3,004,442
常盤小	岡山県総社市	3,007,991
松尾小	千葉県山武市	2,004,747
勝田小	横浜市都筑区	2,014,130
新作小	川崎市高津区	2,006,216
白根小	新潟市南区	2,000,520
内代小	大阪市都島区	2,005,857
真美ケ丘東小	奈良県香芝市	2,032,445
浦安小	岡山市南区	2,005,074
岩戸北小	福岡県那珂川町	2,002,802
健軍小	熊本市東区	2,018,398
西白石小	札幌市白石区	1,009,930
宮城教育大学附属小	仙台市青葉区	1,000,877
小金井小	福島県会津若松市	1,010,161
竹園東小	茨城県つくば市	1,012,516
八原小	茨城県龍ケ崎市	1,004,435
ふじみ野小	埼玉県富士見市	1,036,020
立花小	埼玉県三郷市	1,000,050
村上北小	千葉県八千代市	1,007,700
木下小	千葉県印西市	1,011,535
南多摩幼稚園	東京都八王子市	1,006,195
和泉小	横浜市泉区	1,002,384
杉の子特別支援学校	三重県鈴鹿市	1,223,152
桑津小	大阪市東住吉区	1,006,598
5月		
久里浜小	神奈川県横須賀市	7,024,005
西中田小	仙台市太白区	5,016,517
武庫庄小	兵庫県尼崎市	5,029,630
葦高小	岡山県倉敷市	5,064,487
袋原小	仙台市太白区	4,009,595
大島小	福島県郡山市	4,042,804
古川小	青森市	3,035,884
藤崎小	千葉県習志野市	3,012,162
上小岩小	東京都江戸川区	3,002,657
第四小	東京都立川市	3,001,070
鶴見小	横浜市鶴見区	3,006,817
春日小	新潟県上越市	3,025,246
筑摩小	長野県松本市	3,017,228
一ノ宮小	三重県鈴鹿市	3,006,588
玉出小	大阪市西成区	3,015,144
東畷小	岡山市南区	3,031,016
瀬野小	広島市安芸区	3,007,695
垣生小	松山市	3,020,590
東江幼稚園	東京都葛飾区	2,004,751
隅田小	東京都墨田区	2,015,953
大和小	東京都中野区	2,001,174
青葉台小	横浜市青葉区	2,013,356
山室中	富山市	2,035,201
白楊幼稚園	石川県小松市	2,041,829
井吹東小	神戸市西区	2,018,984
旭丘小	仙台市青葉区	1,010,495
泉北小	福島県いわき市	1,009,415
岡田幼稚園	茨城県常総市	1,011,946
下辺見小	茨城県古河市	1,001,849
長岡小	茨城県茨城町	1,054,082
旭小	神奈川県寒川町	1,021,310
屋代小	長野県千曲市	1,007,548
加茂小	兵庫県洲本市	1,007,108
志手原小	兵庫県三田市	1,012,830
緑丘小	広島県福山市	1,013,810
中関幼稚園	山口県防府市	1,012,180
伊野南小	高知県いの町	1,013,154
6月		
新井小	千葉県市川市	4,003,202
こうべ小	神戸市中央区	4,027,836
亀川小	大分県別府市	4,030,008
東山小	北海道函館市	3,003,483
矢切小	千葉県松戸市	3,003,850
浜寺東小	堺市西区	3,006,693
妙法寺小	神戸市須磨区	3,009,597
枚田小	兵庫県朝来市	3,017,255
西脇小	和歌山市	3,033,710
浜崎小	佐賀県唐津市	3,009,979
影森小	埼玉県秩父市	2,003,697
畑賀小	広島市安芸区	2,020,055
本郷小	札幌市白石区	1,005,007
熊倉小	福島県喜多方市	1,002,310
羽川小	栃木県小山市	1,004,486
ちはら台桜小	千葉県市原市	1,004,076
三山東小	千葉県船橋市	1,023,121
清水小	東京都北区	1,003,430
白金の丘学園	東京都港区	1,002,627
認定こども園峯岡幼稚園	横浜市保土ケ谷区	1,021,150
若杉幼稚園	静岡市駿河区	1,016,983
中之町小	広島県三原市	1,011,502
大山小	佐賀県有田町	1,022,777

豊橋市、「日本一」めざす 市内60カ所に回収箱

科学の最先端 高校生に講演

10月に国内初のシンポ

ノーベル賞級の学者が高校生を対象に最先端の分子科学について講演するシンポジウム「MOLECULAR FRONTIERS SYMPOSIUM 2016」が10月9、10の両日、東京で開かれます。日本では初めての開催です。

http://www.tus.ac.jp/molecular/

ベルマーク財団理事の黒田玲子・東京理科大教授がまとめ役を務めています。科学者をめざす高校生に聴講を呼びかけ、ベルマーク財団は東日本大震災の被災地(福島、宮城、岩手)、および熊本地震被災地(熊本、大分)から聴講する高校生合計5人分の往復旅費を補助します。宿泊施設は主催者である東京理科大が提供します。

人口約38万人、15万世帯が暮らす愛知県豊橋市が、今年度から市をあげてベルマーク収集の取り組みを始めました。昨年始めた東大阪市、兵庫県三木市に続き、市が中心となって運動を進める自治体は全国で3番目です。

4月1日の定例記者会見で、佐原光一市長は「『ベルマーク日本一!』プロジェクト」をスローガンに、ベルマークへの協力日本一のまちを目指します。まずは1千万点を目標に、長く続けていく予定です」と話しました。

市が実施したアンケートでは、市内に74ある小、中学校のうち、ベルマーク運動に参加しているのは31校と、半数以下でした。そこで、ベルマーク預金で教材や備品を購入してもらい、教育設備のさらなる充実を図ろうと、市が先頭に立って収集に乗り出すことにしました。

まずは市内に約60カ所ある市民館や窓口センターに回収箱を置いて、市民がいつでも、どこでもマークを気軽に入れられる環境を整えます。地元の企業にも協力を依頼し、ベルマークに交換できるインクカートリッジ、トナーカートリッジを回収します。

回収した後のマークの整理や集計がネックになるという声を受けて、「庁内障害者ワークステーション わくわく」と「市立くすのき特別支援学校」の2カ所で、作業学習として仕分けてもらうことにしました。学校やPTAの負担を軽くして、参加校を増やすとともに、障害者の就労支援にも役立てる予定です。

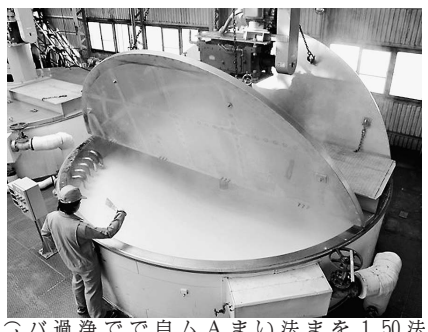
集まったベルマークの分配方法など詳細はこれから決めますが、市民が無理なく協力していける態勢を目指していくそうです。

ベルマーク回収箱(左)と、市が作ったカートリッジ専用回収箱

牛乳石鹸工場 財団員が見学

大阪・鶴見区

牛乳石鹸共進社(ベルマーク番号37)の大阪市鶴見区にある安田工場を財団職員3人が訪ね、製造過程の説明を受けました。甲子園球場1・2倍の敷地にある工場では、約200人が働いています。



石鹸は二通りの製法があるそうで、安田工場は「釜炊き製法(鹸化塩析法)」で、1日50万トン、年間1億2千万個を製造しています。この製法では甘水という廃液が出ますが、「UASBシステム」という独自の処理方法で下水に放流できる水質に浄化し、処理過程で生じるバイオガス(メタンガス)は工場内のボイラー燃料に利用しています。

2013年2月、わが国で初めて、このシステムが稼動したことで大幅な省エネルギーを実現、工場全体のCO2を11・0パイ、産業廃棄物は年間1200トン、工場全体の80・0パイ削減に成功しました。

製造工程の建屋内には日本酒の発酵樽のようなけん化釜が11基並びます。原料の牛脂、ヤシ油、水に水酸化ナトリウムを混ぜて加熱、釜の中ではかくはん機が絶えず回転しています。

一週間ほど反応、熟成させ、ドロドロの液状ニートソープを取り出します。この過程では熟練した職人技が必要となります。乾燥させて粒状のチップに固め、香料を配合、よく練り合わせた後、棒状に固めます。「棒」を6等分に切り分けると、おなじみの石鹸大になり、形を整えて、牛のマークを刻んで包装過程に回ります。

重さや形が規格に合わないものはベルトコンベアーの途中で自動的にはじかれ、完全機械化と思いきや、随所に人の手が加わり、形、大きさ、香りを点検しています。異物が混じってないかどうかはX線検査でも確認します。こうして主力商品の「赤箱」「青箱」が出来上がります。

工場内には100年の歩みが分かる「歴史資料館」があります。

おなじみの「♪牛乳石鹸、よい石鹸」のオルゴールのメロディに迎えられて館内に入ると、赤箱のパーケージの変遷や銭湯を細部まで再現した模型、番組スポンサーとなったテレビの音楽バラエティ「シャボン玉ホリデー」(1961〜72年放送)や、人気絶頂のピンクレディーを起用した宣伝ポスターが展示されています。

ベルマークのひとコマ

つのだ・さとし

「スイカのお面で ママをおどろかしてやろう……!!」

神垣理事を再任

財団評議員会

ベルマーク教育助成財団(銭谷眞美理事長)は6月1日、評議員会を開き、2015年度の事業報告と決算を承認しました。また、任期満了を迎えた理事の神垣清水(かみがき・せいすい)氏が再任されました。

◇

6月現在のベルマーク財団理事・監事・評議員は次の通りです。

理事長　銭谷眞美(東京国立博物館長)

専務理事　西村陽一(朝日新聞社常務取締役編集担当)

常務理事　中島泰(前朝日新聞社論説副主幹)

理事　渡辺通弘(昭和音楽大学名誉教授)、川淵三郎(日本サッカー協会最高顧問)、内海孝(東京外国語大学名誉教授)、黒田玲子(東京理科大学教授)、神垣清水(前公正取引委員)、真砂靖(弁護士)

監事　杉浦文彦(公認会計士)、小西勝英(朝日新聞社取締役財務担当兼財務本部長)

評議員　加藤寿一(日本PTA全国協議会副会長)、小滝岩夫(全国連合小学校長会事務局長)、堀井榮夫(全日本中学校長会事務局長)、小栗洋(全国高等学校長協会事務局長)、野村昌彦(弁護士)、田嶋一(國學院大學文学部教授)、氏岡真弓(朝日新聞社論説委員)、鈴木健(朝日新聞社ブランド推進担当補佐)、中西豊樹(朝日新聞社大阪本社編集局長補佐)

愛は食卓にある。kewpie

NEW

「卵のコク」が生み出す、新しいおいしさ。

卵の量をふやし、原料をシンプルな配合に見直すことで、
卵のコクがさらにUPしました。
カロリーオフとは思えない満足感をおとどけします。

キューピーハーフ

www.qphalf.com